

第1号議案 令和4年度(2022年度) 事業報告

令和4年度も『コロナ』は終息にはいたらず、まち協の主催事業の一つである『多世代日帰りバス旅行』は本年度も実施できませんでした。

しかし、まち協の活動の主目的である多世代交流を活性化するために、「やよい夢ひろば」（以下「夢ひろば」とする）を利用したイベントを実施するなど一定の成果が得られた一年間でした。

以下、令和4年度のまち協の活動の概要について報告いたします。令和5年度も多世代交流の充実を図るために努力してまいりますので、引き続き皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

(活動の目的)

構成団体との連携の強化に努めるとともに、地域活性化のための課題解決と地域資源の活用をめざし、市と協働で多世代交流の場の拡充や情報活動の円滑化を図った。

また、構成団体間のつながりを強め、各グループが地域一体となって取り組む事業（オープン事業）や、多世代交流事業を活性化し、コミュニケーションの輪を広げ、絆づくりを重視した活動を行う。さらに、自治会への入会意識を高めるとともに、高齢化社会に対応した「安心・安全で、明るく・住みよいまちづくり」を高齢者自らも実践していただくことを重視した。

(活動の内容)

1. 主催事業

- 1) コミセン事務員1名（3名シフト：毎週月～土9:00~13:00常勤）の雇用を継続し、各団体の連絡窓口とまち協や構成団体の事務的業務の軽減に努めた。
- 2) まち協活動の周知、地域情報の伝達。自治会活動の啓発を目的とし、「まち協だより」を3回発行した。 第10号;7月 第11号:10月 第12号：2月
- 3) 「夢ひろば」については、多世代交流の場として利用が活性化するように設備等の充実を図った。また、弥生フェスの会場、老人クラブ弥生会など諸団体の活動場所として幅広く利用された。
 - ①諸団体・グループが「夢ひろば」の保全を保ち、適切な利用ができるよう、「やよい夢ひろばの団体等の専用使用に関する利用規定」を定めた。
 - ②家族が利用しやすいように、水道栓やキャンピングテーブル8人掛け2台、4人掛け1台（パラソル付き）、簡易ベンチ6台、手荷物掛け2基、倉庫1台を設置した。
 - ③「夢ひろば」の維持管理に関して、老人クラブ弥生会の有志を中心にした「やよい夢ひろば維持管理実行委員会」と6月に委託契約を締結し、芝生及び生垣を年6回程度芝刈り機等で作業を行った他、草抜き・除草を随時行った。
 - ④9月には、交付金を活用し、「夢ひろば」で行うイベントでの使用や日常的な多世代交流活性化のためにグランドゴルフ、モルック、ポッチャなどのニュースポーツ用品、テントを購入した。（1月に「貸し出し規定」を定めた）
 - ⑤12月3日に開催された「弥生フェス2022」の多世代交流イベントではニュースポーツを「夢ひろば」で実施。子どもたちから大人まで幅広い年代の地域住民が参加した。

⑥「老人クラブ弥生会」グランドゴルフ部のホームグランドとして活用した。

(水、金曜日の午前中92日、延べ1891人参加)

⑥ー2「老人クラブ弥生会」グランドゴルフ部のオープン事業として活用した。

(木曜日の午前中、45日、延べ450人参加)

⑥ー3他地区の老人クラブが利用規定順守でグランドゴルフ練習場として活用した。

(火曜日の午前中、28日、延べ300人参加)

⑦弥生小学校3年生が、フィールド学習で活用した。

⑧遊歩道から「夢ひろば」につながる坂道を整備した。

4) 街区公園の除草作業(三田市公園みどり課協定事業)

自治会(ほっと841)主体で、2・3丁目児童公園の除草を年4回、低木剪定を1回実施した。
(参加人数延べ65人)

5) とんど焼き

実行委員会(少年野球コーチOB会)を中心に「とんど焼き」(1月15日 参加者200名)を実施した。※今年度から主催事業

6) 多世代交流バス旅行

コロナ禍のために令和2年から3年間実施できなかったが、令和5年7～8月ごろの実施を目指して、7月に実行委員会を組織した。その後の実行委員会、2月の役員会を経て実施の方向で検討した。

7) コミセン常設AEDレンタル費用と防災用デジタル簡易無線機の電波使用料を負担した。

II. 共催事業(ある構成団体とまち協が共催で)行う事業)

1) 「弥生フェス2022」

12月3日、4日に開催された自治会主催の「弥生フェス2022」を共催し、3日に『夢ひろば』で実施された「～多世代交流イベント～ ニュースポーツをみんなで楽しもう」をまち協が主催した。老人クラブ・弥生会、少年野球コーチOB会の協力を得て運営し、子どもたちから大人まで参加し、多世代交流の場となった。

2) 避難行動要支援者支援

本年度も引き続き、三田市が定めた「避難行動要支援者支援制度」に基づき、自治会が行う要支援者に対する支援活動が円滑に機能するよう、まち協として関係団体と協議を行い成果を得るよう調整を図った。

III. 支援事業(既存団体に属さない新規地域活動事業や構成団体主催事業で住民全般に広く参加を求めているオープン事業を対象に支援を行った)

1) 「山野草の庭」の整備に取り組んでいる「山野草をたのしむ会」の備品、材料費の一部を支援した。

2) 『やよいっ子サロン実行委員会(放課後子ども教室)』が昨年度まで実施してきた「てらこや(英・数)」や「夏・冬休み宿題お助け隊」(年間125日、参加者延べ1839人)に加え、「テニス教室」(年間10日、参加者延べ435人)を支援した。

3) 「いきいき百歳体操」(毎週金曜日実施)の会場費を一部支援した。

(年間53日、参加者延べ1331名)

- 4) 「うたごえ広場」(毎月第2・4月曜日実施)の会場費を一部支援した。
(年間20日、参加者延べ423名)
- 5) 「弥生カラオケ部」(毎月第2・4水曜日実施)の会場費を一部支援した。
(年間22、参加者延べ168名)
- 6) 自治会主催の「弥生フェス2022」に資機材を貸与した。
(12月3, 4日 参加者約500名)
- 7) 6月から復活した「オアシスやよい」の備品購入を支援した。
(第3土曜日実施 参加者330名)

IV. 後援事業 (地域に役立ち、全住民が参加できる独立した活動事業に対し後援をした)

- 1) カフェやよい(毎週火曜日実施)はコロナ禍のため今年度も中止した。
- 2) ふれあい喫茶(第4火曜日実施 参加者400名)
- 3) 「弥富(ヤフー)こうみん未来塾」(年間4回開催、参加者70名)
- 4) 生活支援活動「ハートやよい」の側面的な協力を行った。
- 5) 弥生テニスサークル:昨年度に引き続き地域高齢者対応の健康事業として開催した。